

～『自分で考え、判断し、行動できる生徒の育成』をめざして～

2025/07/16

★SAH×BOOK「ビブリオバトル」 一期一会

「ビブリオバトル」とは、5分間で1冊のおすすめ本を紹介し合い、参加者全員で「どの本が読みたくなったか」という観点で選んでグループ内で最多数のチャンプ本を決める書評ゲームのことです。校内ビブリオバトル大会は7月2日に予選、8日に決勝が行われ、バトラーがオススメの本に対する思いを発表しました。当日の大会運営も図書委員が中心になって実施しました。

参加した生徒の感想を紹介します。

中学でもビブリオバトルはおこなっていたので、スムーズに進めることができました。先輩方もいて緊張したけれど、しっかり本を紹介できました。(1年 鈴木心菜)

私は、バトラー側で参加し、『私と悪魔の100の問答』という本を紹介しました。「自分の選んだ本のここが好き!」と思うところを紹介できて楽しかったです。ほかのバトラーの方のおすすめ本の紹介も見ることができて、ただ読むだけでなくそこから深く考え、そして言語化できるところがすごいなと思いました。(3年 井口藍衣)



大会運営側で携わった生徒の感想です。

期末テストと準備期間が被ってしまい、時間の無い中での準備で大変でしたが無事に開催できて良かったです。当日もたくさんのバトラーの人が参加してくれて嬉しかったです。(3年 倉持葵)

一期一会

「初めて知る本がたくさんあり読んでみたくなったのでとても良い機会になったと思う」という感想もありました。人生、人とも本とも一期一会。ビブリオバトルに参加した生徒は、この出会いをぜひ大切にしてください。

また、今回みんなの前で発表するというのも「チャレンジ」だったと思います。勇気を出して一歩踏み出して得た経験が、今後何かに生きてくるかもしれませんね。(教頭 長岡将之)

◎ビブリオバトルが終わって、学校司書の金山先生からメッセージをもらいました。

バトラーとして参加してくれた皆さん、勇気を振り絞ってみんなのために素敵な本を紹介してくれてありがとうございました。ポスター作りや会場準備など大会開催まで準備してくれた皆さんや観戦者として参加してくれた皆さんにも感謝します。

ビブリオバトルはなぜ公式ルールが5分なのか、知っていますか。

「本のあらすじ」だけで2分程度で終わってしまいますが、本の良さが現れてくるにはバトラーがどう感じ、バトラーにとってその本がどんな意味を持ち、どういう人が読んだらいいと思っているのかを語る時間が5分は必要なのだそうです。ビブリオバトルのキャッチフレーズは「人を通して本を知る、本を通して人を知る」といわれています。ビブリオバトルはその場に参加しているみんなで作る本と人との出会いを楽しむための場です。自分の勇気で人の心が動かせるのはとても凄いことです。自分の為だけの読書からみんなにつなぐ読書の楽しみ方で新たな発見と視野が広がるきっかけになると思います。

★校長より★ 今回のビブリオバトルを見学をさせていただきましたが、自分が紹介する本の良さを「自分の言葉で」一生懸命伝えようとする姿が印象的でした。本の紹介を通して、自分自身を表現しようとしていると感じました。

これから夏休みに入ります。皆さんが「是非、おすすめしたい」と感じる一冊に出会えると良いなと思います。(校長 原 拓史)

